

(電子メール施行)
農 技 第 1 5 1 5 号
令和 2 年 3 月 2 5 日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和元年度病害虫発生予察防除情報 第 10 号を發表します。

1～3月にかけてネギアザミウマの発生量が多くなっています。気温の上昇に伴い、さらなる発生量の増加が懸念されます。圃場での発生状況を確認し、早期の防除を徹底するようご指導願います。

令和元年度病害虫発生予察防除情報 第 10 号

ネギアザミウマの発生状況と防除対策について

- | | |
|--------|---------|
| 1 対象作物 | タマネギ |
| 2 病害虫名 | ネギアザミウマ |
| 3 発生地域 | 県下全域 |

4 発生状況と今後の発生について

- (1) 加西市のタマネギ予察圃場において、ネギアザミウマ（写真1）の1～3月の発生量が平年より多い（図）。3月上旬の調査では、寄生株率96%（平年値42.4%）、1株当たり成・幼虫数は6.2頭（平年値1.2頭）となり、平年を上回る発生がみられている（図）。特に、幼虫は4.3頭（平年値0.4頭）と多く、暖冬の影響で、平年より早く増殖が進んでいると考えられる。
- (2) 3月上旬に実施した淡路地域でのタマネギ巡回調査において、極早生～早生品種での発生圃場率は90.9%、1株当たり成・幼虫数は6.5頭、中生～晩生品種での発生圃場率は42.9%、1株当たり成・幼虫数は0.3頭となり、極早生～早生品種を中心に発生が多い（表）。
- (3) 向こう1か月の近畿地方の気象予報（3月19日発表）では、気温は平年より高く推移すると予想されており、気温の上昇に伴って本種の増殖にさらに好適な条件となる。早くから幼虫の増殖が進んでいることと合わせて、今後、世代が進むにつれて密度が急増し、タマネギから分散してキャベツ等周辺の作物で被害が生じる恐れもある。

5 防除上の留意点

- (1) 多発すると密度抑制が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。特に本年は発生時期が平年より早いいため、各圃場での発生状況をよく観察し、早期防除に努める。

- (2) タマネギでは、主に新葉が重なっている部分に生息しているため（写真2）、葉と葉の隙間を重点的に観察する。
- (3) 薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)。本種は、各系統の殺虫剤に対する抵抗性の発達が懸念されている。抵抗性獲得を避けるため、同一系統薬剤を連用せず、系統の異なる薬剤をローテーションして使用する。

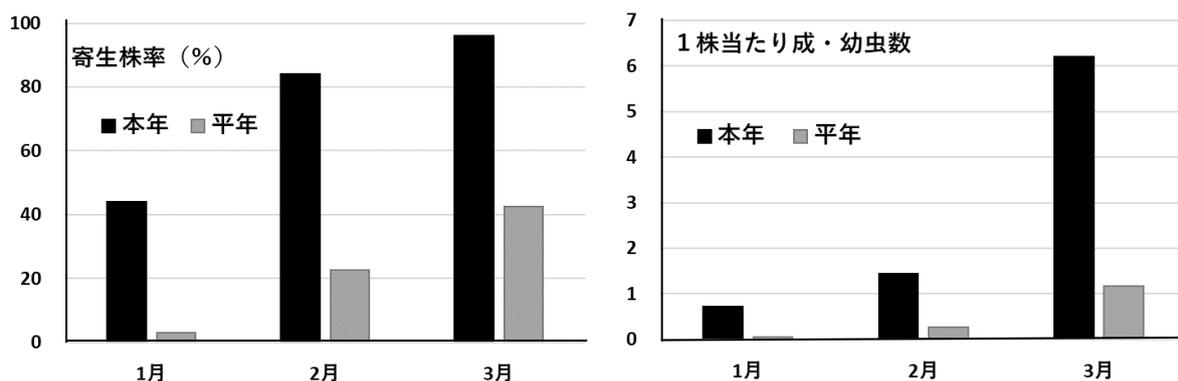


図 タマネギ予察圃場（加西市）におけるネギアザミウマの発生量の比較

表 タマネギ圃場におけるネギアザミウマの発生状況（2020年3月上旬 淡路地域）

作型	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	1株あたり虫数		
				成虫	幼虫	合計
極早生～早生	11	10	90.9	1.7	4.7	6.5
中生～晩生	35	15	42.9	0.1	0.2	0.3



写真1 ネギアザミウマの成虫（左）と幼虫（右） 写真2 タマネギ新葉の隙間に寄生する幼虫

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nour.insuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222